

図書だより

令和4年度
Vol.8

甲佐高校図書室

🌸 新着図書からおすすめの本をご紹介します 🌸



『カーテンコール!』 加納朋子／著

かつては良家の子女が多く集い、そのブランドから就職率も良かった萌木女学園。だが経営難で、ついに閉校が決まった。最後の学年を送り出し、伝統ある学園の歴史に幕が引かれる。ーはずだったのだが。出席日数や成績など、どこをどうとりつくろって卒業できない学生たちがいた。彼女たちは理事長の温情で半年の猶予を与えられ、敷地の片隅に残された寮で補習を受けることになる。外出もネットも禁止。食事も生活も完全管理。半年間の軟禁生活は、ウケアリ女学生たちをどう変えるのか？



『武器ではなく命の水をおくりたい』 中村哲医師の生き方 宮田律／著

2009年12月アガタラで凶弾に倒れた中村哲医師。3年経たず、バスタブにアガタラで人道支援にあたった生涯をたどりながらその生き方考え方を伝える。水は命である。常々語っていた中村医師アガタラの人々のため、井戸を掘ってその命を救う。中村医師の感慨にアガタラの人々が尊敬の念をもたはやり思いやりを大切にする日本人と共通する心情が尊厳としてあつたでしょう。中村医師アガタラの人々に示した優しさや思いやりは日本人が忘れてしまいかもしれません。しかし、多くの人が中村医師の生き方に共感するのは、他者配慮し助け合つていまだに日本では大切なものと思われているからだと思います。(本文より)



『わたしの全てのわたしたち』 サラ・クソサキ／著

グレースとティップは16歳。腰から下がつなごうとした結合双生児だ。普通とはちがう幸せな日常、初めての学校生活。友情恋として別れが詩のかたちで綴られた、みずみずしく切ない青春小説。――この作はアガタラですが、ティップとグレースの人生や結合双生児として生きるあたりの気持ちや、世間の人々の様々な反応はすべてにわたってまた現任生きている結合双生児をもとにしていきます。(おのがきより)

本のリクエスト受付中です!

図書室カウンターや返却ボックス横に置いてあるリクエスト用紙に記入し、専用箱に入れてください。

本の種類は、小説、マンガ、ライトノベル、実用書、何でもOKです。

※リクエストのすべてを購入できるわけではありません。

🌸 霜月 🌸
霜がおりるため、霜降り月と名付けられたのが変化したものとされます。10月の神無月に対して、11月には各神社に神様が戻ってくることから「神帰月(かみかえりづき)」などとも呼ばれるそうです。

図書委員おすすめの本



『余命10年』 小坂流加／作

この小説は、いろいろな小説を読んできたなかで一番読み返した小説です。

この小説のストーリーをおおまかに説明すると、主人公の茉莉が、ある病気で余命10年を宣告されてそこから退院後の話に展開します。そして、同窓会で好きだった人に再会してだんだんと2人で遊ぶようになっていきます。その後の進展は、この本を読んでみてください。映画も観ましたが、最後のシーンはとても感動しました。

↑ 図書室にあります

「読書の秋」 由来は?

「灯火ようやく親しむべく
かんべん けんじよ
簡編 巻舒すべし」

気候もよく夜の長い秋は、ともし火の下でじっくりと

読書するのに適している、ということ。